

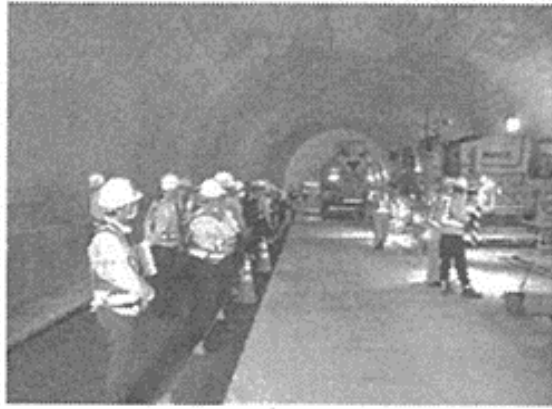
情報化施工の推進へ

会員向けに現場見学会

日本SF協会
日工法

日本スリップフォーム工法協会(西田義則会長)は11月9日、大成ロテックが施工する「新東名高速道路伊勢原北IC」秦野IC間舗装工事」で会員向け現場見学会を開催した。写真。

見学会に先立ち挨拶に



立つた西田会長は、「ICT技術を導入しやすいスリップフォーム工法(SF工法)の普及によって情報化施工の推進と働き方改革を図っていきたい」と述べた。その後、SF工法を利用したトンネル内の連続鉄筋コンクリート舗装(CRSP)の施工状況を26人の参加者が見学した。

また、同工事には大成ロテックが積極的に取り組んでいる情報化施工も導入されており、トータルステーション4基で測量した位置情報を使用し

て敷き均す工程や、大成建設グループで取り組んでいる施工情報一括管理システム「T-CIM」を使い、生コンの出荷情報を出荷元と現場で共有する状況も併せて見学した。

SF工法は、スリップフォームペーパー1台で投入した生コンの敷均し、締固め、成形を行うことができる。施工実績は19年度末で1746万7000平方メートル、そのうち約8割が舗装工事であり、発注件数では1991件の高速道路会社が最も多く、次いで国土交通省が1209件となっている。